

## 各区だより

千種区

ちくさ

ポッチャの  
大会開催を目指して

千種区老連では、新型コロナウイルス禍により、予定された行事が次々と中止になってしまいました。12月23日に緊急事態宣言が発出される寸前に区老連主催のポッチャ研修会が「ちくさポッチャ広めたい」の会員様10名の協力のもと、開催することができました。参加者は12学区の会員とポランティアを含め総勢85名となりました。

今年度初めての行事として、多くの参加者が久しぶりに思い切り体を動かし研修を楽しんでいました。研修が進むにつれ、ポランティアの皆様も次第に熱くなり、会員を含めて次第に大声でプレーしたり、密になったりしていました。本部としては、試合に熱中するあまり気のゆるみがちになる会場を巡回



し、ソーシャルディスタンス、正しいマスクの着用、用具の消毒などに注意して「安心」「安全」な研修会の運営に努めていました。今回は、コロナ禍における大会運営について学ぶことも多かったと感じています。

研修の最後は、3人1組のチームでの模擬試合で盛り上がりました。会場の参加者からは、「力が要らない」、「走る必要がない」、「ルールが簡単」など参加しやすいとの声を聞くことができました。後日、区老連の理事会で、各学区や単位クラブでポッチャの用具を買って、盛大に区老連の大会を開催したらどうかとの提案もありました。今後、ポッチャが各クラブでも盛り上がり、区の大会が開催されていくのではないかと期待しています。(中島 和明)

東区  
C  
ひがし

会員訪問活動

昨年の2月から新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、老人クラブの各種の活動は、感染症の拡大防止のために次々と中止を余儀なくされました。そのため、今まで会員どうし顔を合わせて話したり笑い合ったりしていた集まりがなくなってしまう、寂しい日々を過ごしている仲間が増えてしまいました。この現状をなんとかしようとして東区老連では昨年8月理事会で提唱し、各学区の単位クラブで会員訪問活動を展開しています。

訪問の際には区役所福祉課や保健センター、いきいき支援センター、警察などの協力を得ながら手に入れたさまざまなチラシを配付しています。8月には、熱中症予防とコロナ感染防止の新しい生活様式、9月には交通安全、11月にはコロナに負けない健康づくりとインフルエンザ

予防接種の案内、12月には本格的な冬に向けての健康づくりのポイントなど、時季に応じて工夫をして作成しています。

昨年4月に緊急事態宣言が出たときは何もできず、会員はみな家に引きこもり、孤独に

過ごし、足腰が弱ってしまった人もいました。解除後は体温計で発熱のないことを確認して感染対策をしっかりしてからグラウンド・ゴルフの練習や公園・街路の清掃活動などをして明るく過ごす努力をしています。本年1月に再び緊急事態宣言が発令され、不要不急の外出を自粛することとなりました。コロナとの戦いは先が見えない長いトンネルの中のようなのですが、感染防止対策をしっかり取りながら会員訪問活動ができる範囲で行ない、コロナ対策を始めとするさまざまな情報を提供して会員とのつながりを作っています。(殿島 征男)

